



種名：ナミウズムシ

(三岐腸目 サンカクアタマウズムシ科)

分布：北海道北部を除く日本全域に分布している。

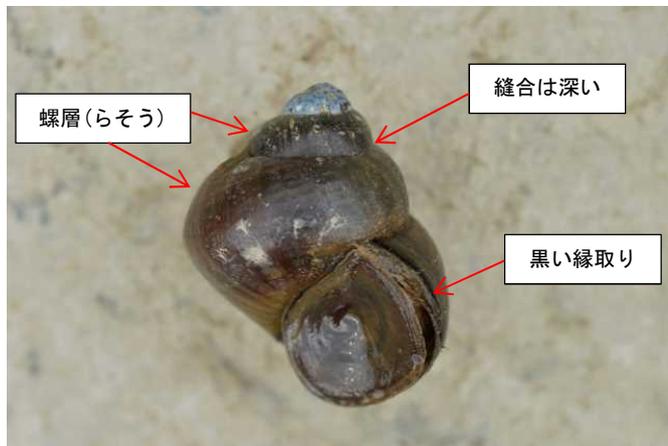
生息環境：主に川の下流から中流部や浅い流れ、湧水、湖や沼の岸部に生息する。

大きさ：1～2 cm の大きさで、3 cm 以上にもなるものがある。

特徴：体の色はうすい茶色、黄褐色、濃い黒色などいろいろで、食物をとったすぐ後は赤身がかかることもある。頭部の形はにぶい三角形をしており、1対の目がある。ときには3～4個の目(過剰眼)を持つものも見られる。小さい流れの中の小石や落ち葉、枯枝、木の破片などの裏について生活している。暗い所が好きで(負の走光性)、泥の中に潜ることが多い。死んだ動物、例えば、水生ミミズや魚などの肉を食べる。春先に2～2.5 mmほどの丸い卵塊を産み、1ヶ月ほどたつと5～15匹の小さいプラナリアが孵化してくる。水温の高い夏には、体の後方が切れて分裂するが、2～3週間で再生してもとの体となる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●	●				



種名：マルタニシ(原始紐舌目 タニシ科)

分布：北海道北部から沖縄にかけて分布する。

大きさ：殻高 40 mm 前後

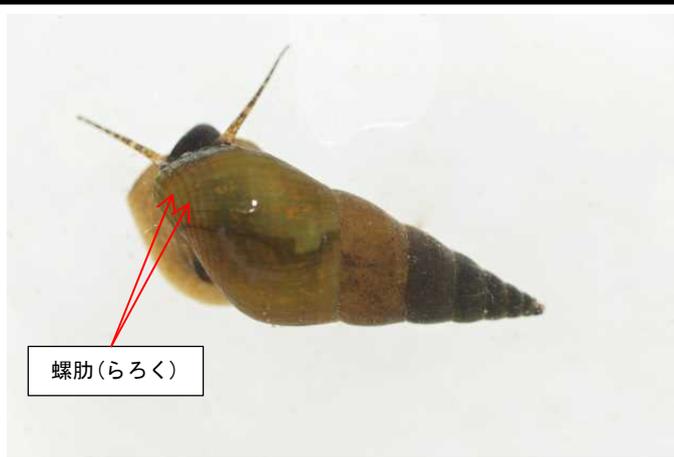
重要種：環境省 RL (VU: 絶滅危惧 II 類)

新潟県 RL (NT: 準絶滅危惧)

特徴：各螺層のふくらみは強く、縫合は深い。緑褐色から黒褐色の殻皮を有し、成貝では殻口全縁は黒く縁どられる。胎児は殻径 6～9 mm。水田や湿地、水路や小川などの年間を通じて、極度に乾燥しない場所に生息する。ほ場整備が進み、冬季は水田を乾燥させて耕す水田が増えてきたため、越冬時に適度に湿った水田が降雪地域や山間部以外には無くなりつつあり、関東地方や瀬戸内海地方を中心に、生息地が急激に減少している。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料			●				



種名：カワニナ（盤足目 カワニナ科）

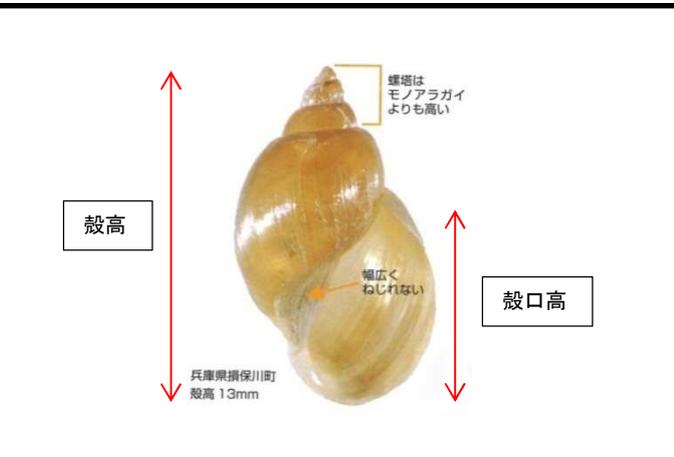
分布：日本全国に分布する。

大きさ：殻高 20 ～ 50 mm

特徴：殻表面には弱い螺肋以外に際立った彫刻はなく、生時には二次的な付着物で覆われていることが多い。大きさや色斑型などによって、いくつかの別名がある。胎児は黄褐色から栗色の殻高 1 ～ 1.2 mm で、殻表面には目立った彫刻はない。南西諸島産では、殻高 20 ～ 25 mm ほどの螺肋が顕著な変異性の低い形態の「沖縄型」が分布する。全国の川や水路などに生息する淡水巻貝の代表的存在である。「清流にすみ、ゲンジボタルの餌となる貝」として清冽な水の生き物のように扱われるが、むしろ丘陵地や谷戸地形の水路や小河川など、有機物のそれなりに存在する場所に多産するようである。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●				



種名：ヒメモノアラガイ

（基眼目 モノアラガイ科）

分布：日本各地に分布する。

生息環境：池沼や湖、流れのほとんどない水路など、止水環境下に好んで生息する。

大きさ：殻高 15 mm 前後

写真：出典 1

特徴：殻口高は殻高の 6 割ほどを占め、モノアラガイよりは相対的に螺塔は高い。軸唇の発達は弱く、ねじれは無いが、極めて弱い。日本各地に分布するが、類似した外来種も帰化しているようなので、交雑や駆逐が現実には起こっている可能性は極めて高い。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●					



種名：サカマキガイ (基眼目 サカマキガイ科)
 分布：日本各地 (ヨーロッパ原産) に分布する。
 生息環境：水田やため池、水路、湿地などの人工的な有機物が多い浅い水域に多産する。
 大きさ：殻高 10 ~ 15 mm 前後

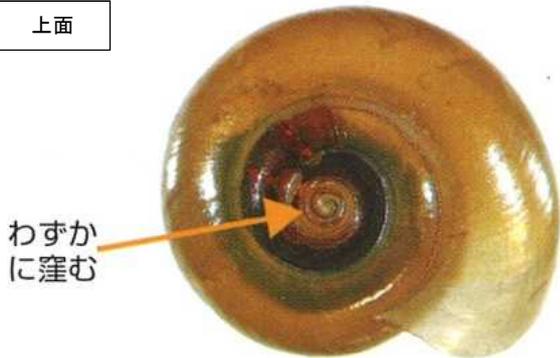
特徴：殻は左巻きで、殻口高は殻高の 2/3 を占める。殻は透明感のある黄白色から飴色。触角が細長いことはモノアラガイ類 (三角形) との大きな相違点である。ヨーロッパ原産とされる本種は、日本各地はもとより世界中に分布を拡大し、今やコスモポリタン種※となっている。汚濁には強いが、家庭排水が大量に流れ込む水路などは、サカマキガイといえども生息が無理なようである。殻口は左側についていて、下から見ると左巻きである。

※コスモポリタン種：汎存種 (はんぞんしゅ) ともいい、世界中どこにでも生息する動植物種のことを指す。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●	●	●		

上面

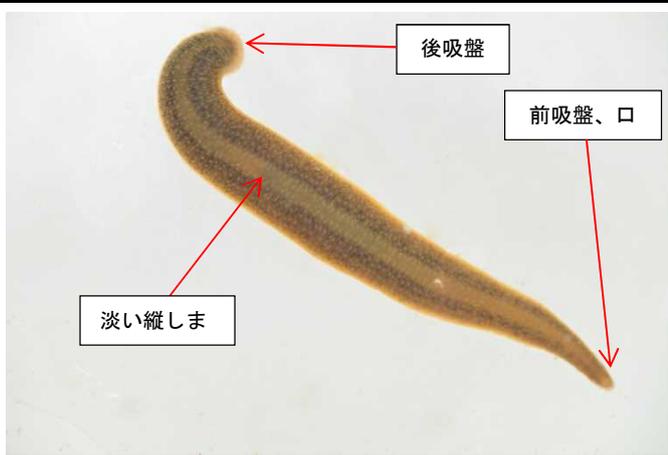


種名：ヒラマキガイモドキ
 (基眼目 ヒラマキガイ科)
 分布：本州, 九州, 沖縄県に分布する。
 生息環境：池沼や水田、用水路、湿地などに生息している。
 大きさ：殻径 4 ~ 5 mm 前後
 重要種：環境省 RL (準絶滅危惧)

特徴：体層の底面は平らで、臍孔は急激に落ち込み、狭く深い陥没となる。螺塔は緩やかな弧を描き殻頂部は浅く陥没する。螺管下面からは畝状の内彫刻が数本透視できる。また、螺管内の反対側にも同様な内突起がある。殻色は黄白色から淡い茶褐色の半透明で光沢があるが、生時は藻類や鉄分などが付着していることも多い。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●					



種名：シマイシビル (吻無蛭目 イシビル科)
 分布：日本全国に分布する。
 生息環境：池、河川、溝などに生息している。
 長さ：40～45 mm

特徴：体は扁平な円柱形、前後端に向って幅狭くなる。体を波打たせて泳ぐこともできる。背面は茶褐色ないし暗緑色、中央に色のやや淡い縦しまがあり、その両側はやや色が濃い。腹面は淡色。前吸盤は小さく、その底に口があり、顎はない。昆虫の幼虫、貧毛類 (ミミズなど) などを食べる。産卵は春から秋にかけて行われる。水底の石の上に卵のうを産みつける。約4週間で孵化する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●			●



種名：ミズムシ (ワラジムシ目 ミズムシ科)
 分布：日本全国に分布する。
 生息環境：湖池、池溝に生息している。
 体長：1 cm くらい

特徴：節足動物でエビやカニに近い仲間。体長1 cm 前後、幅は体長の半分程度。灰色ないし黒褐色。淡色の斑紋が散在。ダンゴムシを平たくしたような体形。長い触角と7対の脚がある。川底に積もった落ち葉や石の下を移動しながら有機物を食べる。水のきれいな流れにもいるが、汚れた水には、より多く生息している。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●		●	●



種名：ヌカエビ（エビ目 ヌマエビ科）

分布：太平洋側は青森県から愛知県、日本海側は青森県から島根県と滋賀県琵琶湖に分布している。

生息環境：湖沼や河川の中流・上流域に生息する。

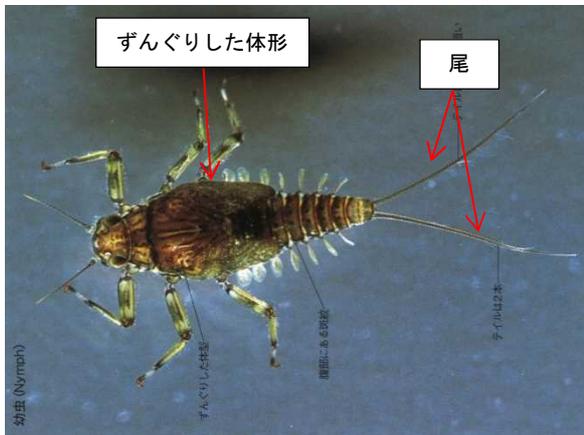
体長：31 mm 程度まで

写真：出典2

特徴：体色は透明で、白色、灰色、薄茶色、緑色などの小斑点や背面に明るい帯が入る個体もいる。メスの大型個体の体色は濃くなるが、オスはやや透明感がある。ヌマエビより透明感は少なく、色彩も鮮やかではない。目が横に広がり、眼柄幅に対して眼球の大きさはヌマエビより小さい。前胸脚に外肢がある。ヌマエビは小卵多産だが、本種は大卵少産または中卵中産。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●					



種名：ミジカオフトバコカゲロウ
(カゲロウ目 コカゲロウ科)

分布：本州に分布している。

生息環境：平地溪流から平地流の平瀬緩流部に生息する。

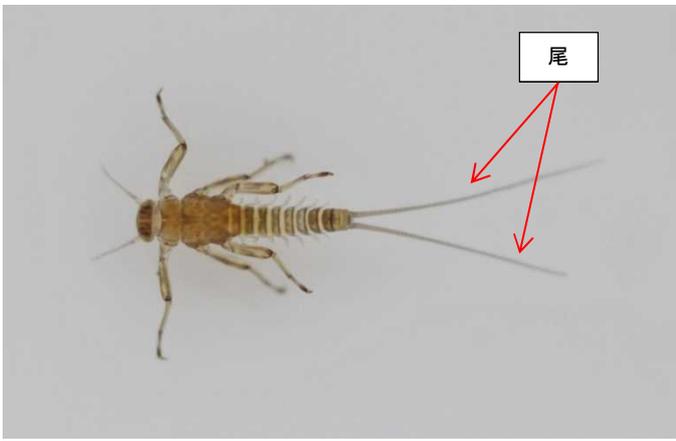
体長：4 mm

写真：出典4

特徴：尾は2本で、体長より短い。ずんぐりした体形。石などについた藻類を食べている。コカゲロウ科にしては珍しく泳ぎが下手である。4月中旬から初夏にかけて羽化がみられる。水中で脱皮羽化し亜成虫が浮き上がってくる水中羽化を行う。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●	●			

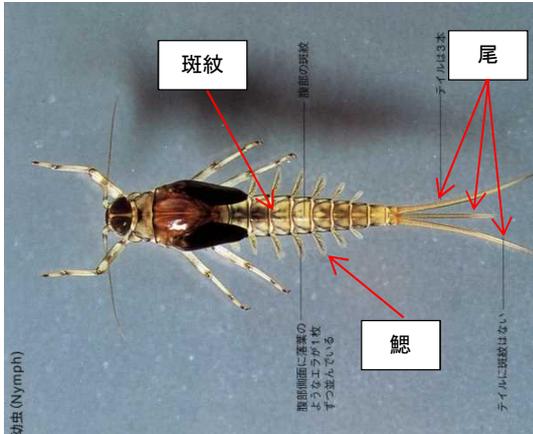


種名：フタバコカゲロウ
 (カゲロウ目 コカゲロウ科)
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布している。
 生息環境：河川の源流域から下流域まで広範囲に生息している。
 体長：6 mm くらい

特徴：尾は2本で、体の形や色が特徴的。石などについた藻類を食べている。幼虫は早瀬や急流部の石、岩、倒流木の表面などにしがみついて生活し、あまり動かない。付着藻類を摂食する「はぎとり者」である。年2世代以上で、春の世代は4月中旬に集中的に羽化する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●		●	

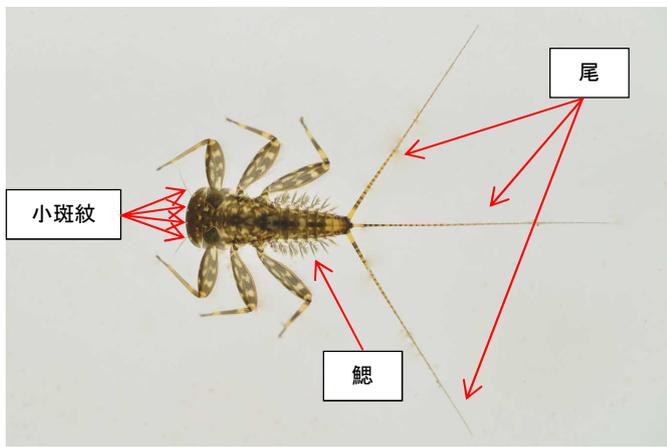


種名：シロハラコカゲロウ
 (カゲロウ目 コカゲロウ科)
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布している。
 生息環境：山地溪流から平地溪流の早瀬、平瀬に生息する。
 体長：8 mm
 写真：出典3

特徴：尾は3本で、腹部に斑紋がある。腹部側面に落ち葉状の鰓がある。日本中に最も普通に生息しているコカゲロウ。石表面につかまり付着藻類を食べる。細長い体形で泳ぎは早い。3月末～4月上旬と9月に羽化のピークがある。春にはスーパーハッチ（大量羽化）がみられることも多い。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●				

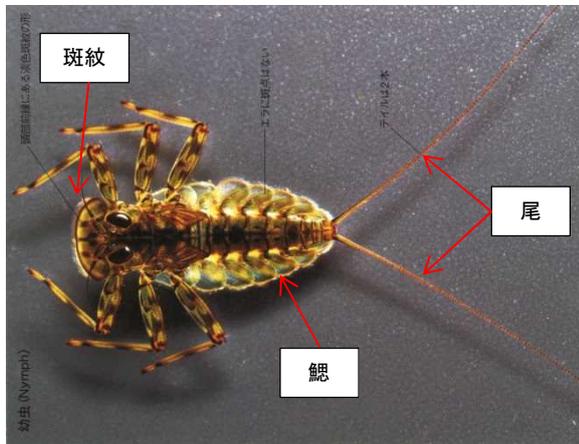


種名：シロタニガワカゲロウ
 (カゲロウ目 ヒラタカゲロウ科)
 分布：本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：河川の中・下流域の緩流域ならびに湖沼
 やダム湖の沿岸帯に生息している。
 体長：12 mm くらい

特徴：体は平たく黒っぽい。尾は3本あり、腹部には木の葉状の鰓があり、さらに根本にはフサ毛状の鰓がある。頭部前方にほぼ同じ大きさの4個の小斑紋がある。全国的に普通に見られる。石礫の表面をはい回って、付着藻類を食べる。1年1世代以上で、成虫は晩春から初夏にかけて出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●	●		



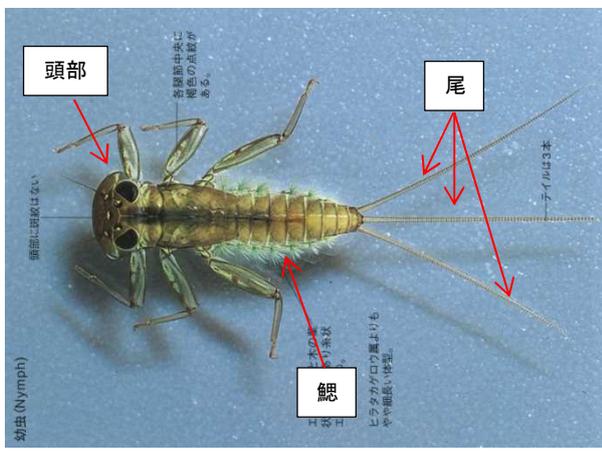
種名：ウエノヒラタカゲロウ
 (カゲロウ目 ヒラタカゲロウ科)
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：山地溪流から平地溪流の早瀬に生息して
 いる。
 体長：14 mm くらい

写真：出典4

特徴：頭部前縁に特徴的な淡色斑紋があることで同定できる。尾は2本で、鰓に斑点はない。幼虫は扁平な体と大きな鰓を吸盤のようにして石に張り付いている。4月下旬～7月上旬と9月～10月にかけて、早瀬から水中羽化で亜成虫が現れる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●		●			



種名：ヒメヒラタカゲロウ

(カゲロウ目 ヒラタカゲロウ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。

生息環境：山地溪流から平地溪流の早瀬から平瀬の流心部に生息している。

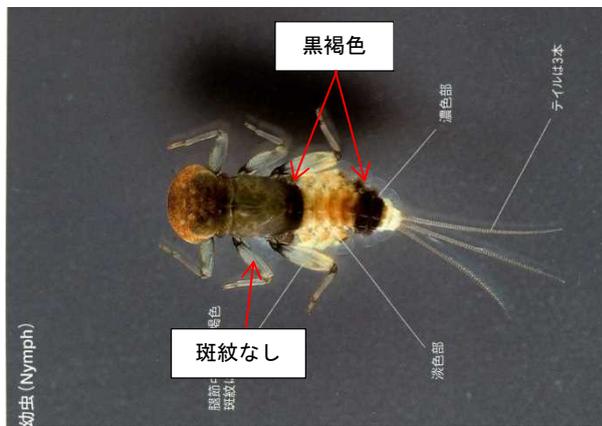
体長：10 mm くらい

写真：出典3

特徴：頭部に斑紋がない。鰓は糸状と木の葉状の両方があり、糸状の鰓が目立つ。尾に毛がない。生息量はかなり多い。流れの速いところに住んでいるが、ヒラタカゲロウの仲間が石表にいるのに比べて少し側面よりの場所に隠れるようにいる。4月下旬～5月上旬ごろには大量に集中して羽化する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●	●	●			



種名：サツキヒメヒラタカゲロウ

(カゲロウ目 ヒラタカゲロウ科)

分布：本州に分布する。

生息環境：山地溪流上部から河川中流域に広く生息し、幼虫は平瀬の小礫底に生息している。

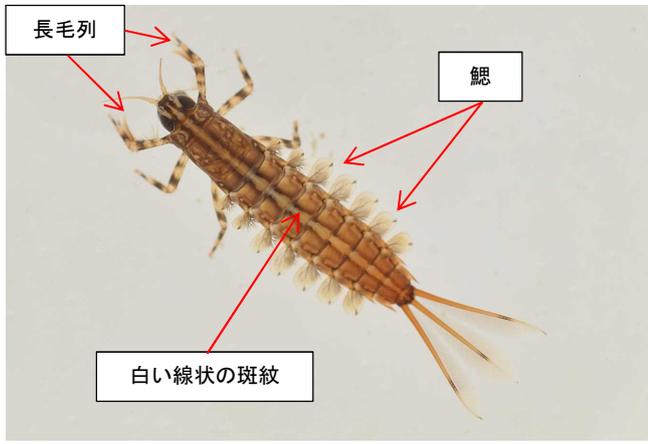
体長：8 mm くらい

写真：出典5

特徴：体は平たく、尾は3本。腹部背面の基部および末端は黒褐色、その間の腹節は淡色であるが、変異も多い。各肢腿節の中央部に暗褐色の斑紋をもたない。近縁種のヒメヒラタカゲロウは各肢腿節の中央部に暗褐色の斑紋をもつ。胸部背面に4個の黒点がある。1年1世代で、成虫は春から初夏にかけて出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●				●



種名：チラカゲロウ

(カゲロウ目 チラカゲロウ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：河川の上流から下流まで広く分布し、平瀬や早瀬の石礫底の流水部に生息している。

体長：18 mm くらい

特徴：幼虫の体は円筒形で、遊泳型。体はチョコレート色で、背面中央に白い線状の斑紋がある。腹部には木の葉状の鰓があり、さらに根本にはフサ毛状の鰓がある。前肢に2本の長毛列がある。尾毛は3本で左右に長毛を密生する。幼虫は平瀬や早瀬の石礫底の流水部に生息し、前肢の長毛列で流下物を濾しとって摂食する。1年2世代以上で、成虫は春から初夏にかけてと、秋に出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●	●	●	●	●



種名：ナミトビイロカゲロウ

(カゲロウ目 トビイロカゲロウ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：水源近くの細流から山地溪流、平地溪流、平地流まで広く普通に生息しており、平地から緩流部に多い。

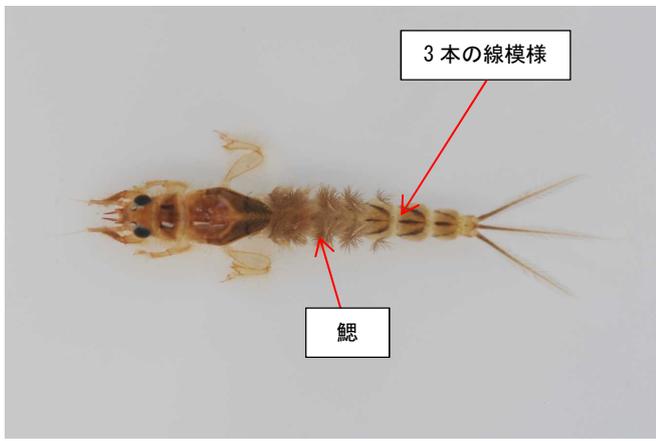
体長：7 mm くらい

写真：出典5

特徴：鰓は糸状で、Y字型になっている。幼虫は沈み落葉の周りや石の隙間などに入っており、溪畔林のよく茂った流れには生息量が多い。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●	●				



種名：フタスジモンカゲロウ

(カゲロウ目 モンカゲロウ科)

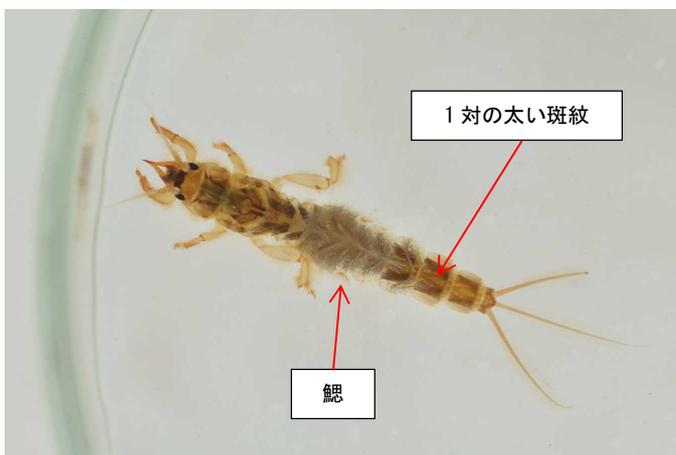
分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：河川上流域から中流域の流れが緩やかな場所に生息する。

体長：20 mm くらい

特徴：体が細長く、頭には角がある。尾は3本で腹部背面にふさふさした毛のような鰓がある。腹部背面にある3本の細い線模様が特徴。砂底や石の隙間にたまった砂地などにU字形のトンネルを掘って、その中に入っている。鰓を使って水流を起こし、水中の有機物をトンネル内に吸い込んで食べる。1年1世代で、成虫は晩春から秋にかけて出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●			



種名：モンカゲロウ

(カゲロウ目 モンカゲロウ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布
 生息環境：河川中流域から下流域の流れの緩やかな場所に生息している。平瀬の細流にもみられる。

体長：20 mm くらい

特徴：体が細長く、頭には角がある。尾は3本で腹部背面にふさふさした毛のような鰓がある。1対の太い斑紋が腹部第7～9節の背面上にある。砂底や石の隙間にたまった砂地などにU字形のトンネルを掘って、その中に入っている。鰓を使って水流を起こし、水中の有機物をトンネル内に吸い込んで食べる。1年1世代で、成虫は晩春に出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●		●		



種名：オオマダラカゲロウ

(カゲロウ目 マダラカゲロウ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。

生息環境：日本中の山地溪流から平地溪流にごく普通にみられ、平瀬の石間や石下に入っている。

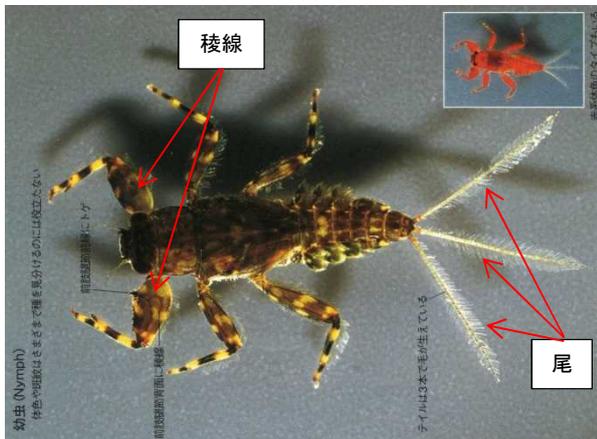
体長：16 mm くらい

写真：出典 4

特徴：頭部前縁に2本の大きなツノがある。体色や斑紋は様々。カゲロウの中では珍しく肉食性が強い。1年1化で、成虫は春に出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●		●	●			



種名：ヨシノマダラカゲロウ

(カゲロウ目 マダラカゲロウ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。

生息環境：山地溪流から平地溪流、水のきれいな平地流の平瀬流心部に生息している。

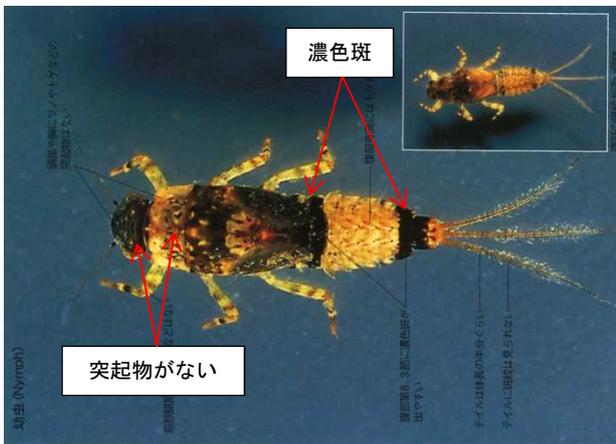
体長：11 mm くらい

写真：出典 4

特徴：前肢腿節背面に稜線がある。尾は3本で毛が生えている。赤系体色のタイプもある。石と石の間などを這い回って主に付着藻類などを食べる。弱った幼虫などを食べることもある。1年1化で、成虫は晩春から初夏にかけて出現する。平瀬流心部で日没頃の短時間に水面羽化する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●				



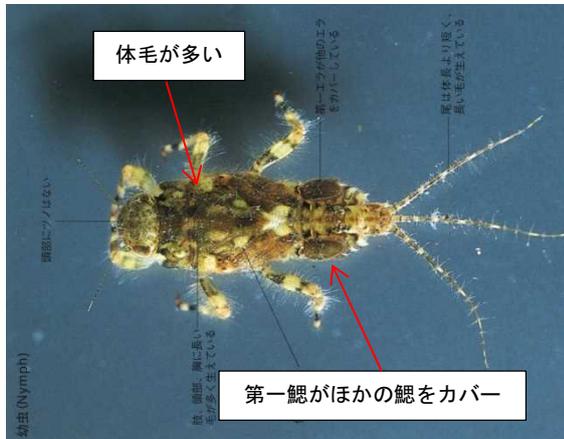
種名：ホソバマダラカゲロウ
 (カゲロウ目 マダラカゲロウ科)
 分布：本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：山地溪流の平瀬緩流部に生息する。
 体長：10 mm くらい

写真：出典 4

特徴：腹部第 3、8 節に濃色斑が出やすいが、斑紋の淡い個体もあるので注意が必要。頭部や胸の背面に角やとげなどの突起物はない。幼虫は瀬脇の浮石の下や隙間を這い回る。1 年 1 化で、成虫は春に出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●	●	●			



種名：エラブタマダラカゲロウ
 (カゲロウ目 マダラカゲロウ科)
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：平地溪流の平瀬脇、緩流部に積もった落葉の中やヨシ群落近くに生息する。
 体長：7 mm くらい

写真：出典 3

特徴：肢、頭部、胸に長い毛が多く生えている。第一鰓がほかの鰓を覆っている。頭部に角はなく、体色は様々。採集しても体毛にごみ絡み付いてカモフラージュになっており、また動きが鈍いこともあって見落としやすい。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料				●			



種名：アカマダラカゲロウ
 (カゲロウ目 マダラカゲロウ科)
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：河川下流域の流れの緩やかで、落ち葉や落枝などが堆積した場所に生息する。
 体長：5 mm くらい

特徴：体は太くて短く、尾は3本。細流にも見られる。本種の背面には2本の線状の斑紋があることから（ただし若い個体ははっきりしない）、他の仲間と区別できる。石の隙間や木の下などをのそのそとはい回り、石や落ち葉に生える付着藻類や有機物を食べる。泳ぎは下手で、くねくねするだけ。1年1世代で、成虫は夏に出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●			



種名：ハグロトンボ
 (トンボ目 カワトンボ科)
 分布：本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：主に平地や丘陵地のヨシやミクリなどの抽水植物や沈水植物が繁茂する緩やかな流れに生息している。
 体長：20 ~ 28 mm くらい

特徴：淡褐色ないし淡い緑褐色の地に褐色あるいは黒褐色の斑紋がある細長い大型のヤゴ。アオハダトンボに酷似してまぎらわしい。成虫は翅の黒いやや大型のカワトンボ。成虫は5月末から10月中旬頃までみられる。【名前の由来】古くはオハグロトンボとよんでいた。既婚婦人が歯を黒く染めた「お歯黒」に似ていることにちなんでつけられたものである。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●			



種名：コシボソヤンマ（トンボ目 ヤンマ科）
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：平地や丘陵地の木陰の多い流れに見られ、水中に露出した植物の細い根際などにつかまって生息している。
 体長：39～45 mm くらい

特徴：褐色または褐色の地に淡色と濃色のはっきりしない複雑な斑紋がある大型ヤゴ。表面が硬く、全面に微細な顆粒があつて側縁がとげとげしいため、いかつい感じがする。つかまえると肢を縮めて体を背面に強く反り返らせ、擬死を装う。成虫は夏から秋まで見られる。【名前の由来】腰の細いヤンマ（成虫の特徴）の意。腹部第3節のくびれにちなんでいる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料			●			●	

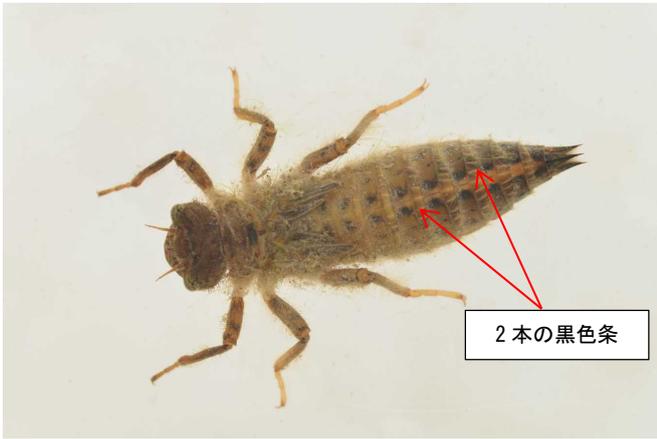


種名：コオニヤンマ
 （トンボ目 サナエトンボ科）
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：丘陵地から山地を流れる河川の上流ないし中流にみられ、抽水植物の根元や流れの比較的ゆるやかな砂礫底の砂礫の隙間などにうずくまって生息している。
 体長：31～35 mm くらい

特徴：赤褐色または黒褐色の著しく扁平な広葉状あるいはウチワ状をした大型ヤゴ。その特異な体型から一見して識別できる。成虫は主に夏に出現する。【名前の由来】小オニヤンマつまり小さいオニヤンマの意。日本産トンボ類中最大のオニヤンマより小さいことに由来している。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料			●	●	●		



種名：オニヤンマ（トンボ目 オニヤンマ科）
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：平地から山地にいたる小川や湧水、湿地の滞水など、広範囲な陸水域に見られ、水底の砂泥の中や落ち葉など植物性沈積物の下、ミズゴケの間などに潜んで生息している。
 体長：40～46 mm くらい

特徴：黄褐色または汚褐色の著しく細長い紡錘形をした大型ヤゴ。腹部正中線に比較的是っきりした2本の黒色条と複雑な褐色の小斑が散らばる。成虫は初夏から秋に出現する。【名前の由来】鬼のようなヤンマの意。いかめしい顔つきと、黒色と黄色のだんだら模様（成虫の特徴）から虎の皮のふんどしをしめた「鬼」を連想して名づけられたもの。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●	●		●		

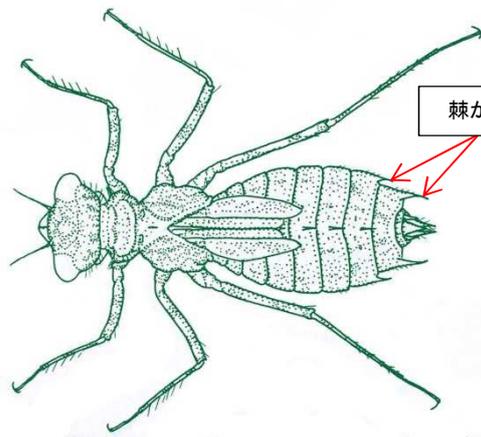


種名：コヤマトンボ
 （トンボ目 エゾトンボ科）
 分布：本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：丘陵地や低山地を流れる河川の砂礫底ないし砂泥底、植物性沈積物の陰にうずくまって生息している。
 体長：26～30 mm くらい

特徴：淡褐色または暗褐色の地に褐色か黒褐色のはっきりしない濃淡斑がある扁平な卵形ないし楕円形をした大型ヤゴ。肢が長くアシダカグモを連想させる。体色・斑紋は個体による変異が著しい。成虫は晩春から夏に出現する。【名前の由来】小さい山トンボの意。よく似たオオヤマトンボより小さいことに由来している。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料			●	●			



種名：マイコアカネ
(トンボ目 トンボ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
生息環境：平地や丘陵地の抽水植物が生い茂る池沼に生息する。

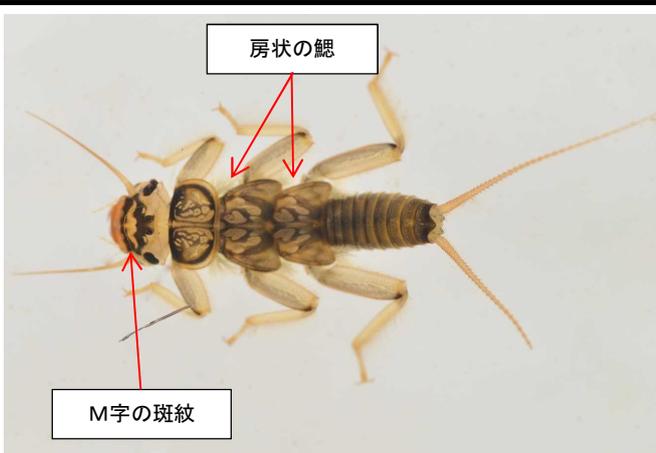
体長：13～15 mm くらい

写真：出典6

特徴：淡黄褐色から淡褐色の地に褐色と黒褐色の複雑な斑紋がある小型ヤゴ。日本産同属の中ではヒメアカネ、ムツアカネに次いで小さく、いくぶん扁平感が強い。第8、9節にやや内向きに突出する太短い側棘がある。成虫は初夏から晩秋に出現する。【名前の由来】成熟したオスの全額前面が美しい青白色を呈するのを、京の舞妓のうなじの白さに見立てて名づけたものといわれている。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●					



種名：カミムラカワゲラ
(カワゲラ目 カワゲラ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
生息環境：河川中流域から下流域の流れの緩やかな場所に生息している。

体長：20 mm くらい

特徴：頭部にくっきりしたM字型の斑紋がある。肢の付け根に房状の鰓がある。尾は2本、肛門付近に鰓はない。肉食性で平瀬の石下などをはい回っている。日本に分布するカワゲラのなかできわめて普通のカワゲラ。属名は日露戦争当時の第二艦隊司令長官・海軍中将上村彦之丞の姓からとられたもの。1年1世代で、成虫は晩春から初夏にかけて出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●	●	●	●



種名：フタツメカワゲラ属
(カワゲラ目 カワゲラ科)

分布：本州に生息する。

生息環境：河川上流域から下流域の流れの緩やかな、砂や落ち葉が堆積した場所に生息する。池や湖にもみられる。

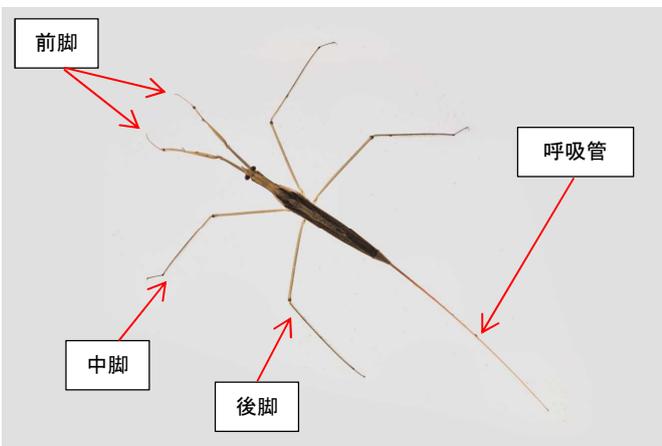
体長：20 mm 前後

写真：出典7

特徴：通常は3つある単眼が2つしかない。肛門に鰓がある。本属は日本産カワゲラ科の中では最も種数が多く、幼虫を種まで同定するのは難しい。他のカワゲラ類に比べて水の汚れに耐性があり、やや汚れた水域でも生息していることがある。川では平瀬緩流部の石の間や落ち葉の中を這い回って他の幼虫などを捕食している。成虫は4～9月に羽化する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料			●				



種名：ミズカマキリ
(カメムシ目 タイコウチ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。

生息環境：河川や湖沼のやや水深があり、水生植物が繁茂する場所に生息する。タイコウチよりも水深が深い所を好む。

体長：40～50 mm くらい

特徴：成虫：40～45 mm。体は細長く、体色は灰褐色ないし暗褐色である。前胸背は長く、前脚の基節も長い。腹部先端には2本の体長ぐらいの呼吸管を持つ。雄では呼吸管は体長より長く、雌では体長とほぼ等しい。前脚は捕獲脚、中後脚は遊泳脚になっている。肉食性で捕獲脚を使って小型の魚類やオタマジャクシ、流下する陸生昆虫などを捕え、体液を吸い取る。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●	●			●	



種名：コガタシマトビケラ
(トビケラ目 シマトビケラ科)

分布：本州、四国、九州に分布する。

生息環境：河川の上流から下流まで広く見られ、湖沼の沿岸部まで生息していることがある。

体長：10 mm くらい

特徴：体はイモムシ状で、頭部前縁部が凹んでいる。腹部にはふさふさした白い鰓がある。瀬の石の隙間に小石等で巣をつくり、網を張って、流れてくるデトリタス（藻類、落ち葉のクズなど）を食べている。一年中見られ、個体数は多い。頭部と前・中・後胸の背面は褐色のキチン板で被われ、腹部には房状の鰓がある。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●	●	●	●



種名：ウルマーシマトビケラ
(トビケラ目 シマトビケラ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。

生息環境：河川の上流から中流にかけての流れの速い瀬に多く生息している。

体長：10 ~ 14 mm くらい

特徴：体はイモムシ状で、頭部は茶褐色で眼のまわりのみ淡色。腹部下側には鰓が並び、それぞれが木の枝状に分かれている。日本の河川では、もっとも普通にみられるトビケラの仲間。瀬の石の隙間に小石等で巣をつくり、網を張って、流れてくるデトリタス（藻類、落ち葉のクズなど）を食べているが、広食性で、付着藻類や動物質なども摂食する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●	●		



種名：ミヤマイトビケラ属
(トビケラ目 イトビケラ科)

分布：北海道、本州に分布する。

生息環境：河川上流域から中流域にかけて生息する。

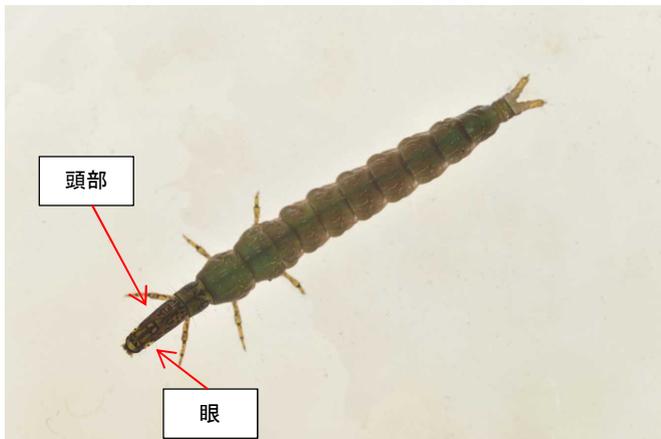
体長：18 mm 前後

写真：出典7

特徴：回廊状の固着巣を作る。巣に触れると幼虫は巣を捨てて逃げ出すので、巣から出た幼虫を採集することが多い。成虫の出現期や生活史の詳細は不明である。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●					



種名：ヒゲナガカワトビケラ
(トビケラ目 ヒゲナガカワトビケラ科)

分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。

生息環境：河川の中流から上流域にかけての流れの速い早瀬の礫や小石の間隙に固着巣を作り、その上流側にクモの巣のような食物捕獲網をはって生活する。

体長：30 ~ 40 mm くらい

特徴：体はイモムシ状で、頭部が細長く斑紋がたくさんあり大型。頭部の先端の口の近くに眼がある。体はオリーブ色から濃褐色で鰓はない。礫間や礫裏に口から吐いた糸で粗い網を張って固着巣を作り、その中で生活する(造網型とよばれる)。網は捕獲網と巣室とに分かれており、捕獲網で食物を集める。捕獲網にかかる流下珪藻や植物片を摂食する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●		●	



種名：チャバネヒゲナガカワトビケラ
 (トビケラ目 ヒゲナガカワトビケラ科)
 分布：本州、四国、九州に生息する。
 生息環境：河川上流域から下流域にかけて生息する。
 体長：40 mm 前後

写真：出典7

特徴：ヒゲナガカワトビケラのみが生息し、本種がみられない河川や流程もある。1年1化あるいは2化で、成虫は春から秋にかけて出現する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●					



種名：ヤマトビケラ属
 (トビケラ目 ヤマトビケラ科)
 分布：北海道、本州、四国、九州に生息する。
 生息環境：河川上流域から下流域の流れが緩やかな場所に生息する。
 体長：4 mm 前後

写真：出典7

特徴：幼虫は砂粒で作られた半球型の巣に入っている。日本産ヤマトビケラ属は15種以上が記録されているが、幼虫を種まで同定するのは難しい。水中の大きな石の上についているのをよく見かけるが、人が近付くと石の表面から転がり落ちるようにして逃げる。幼虫は石の表面についた藻類を食べる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●			



種名：ムナグロナガレトビケラ
 (トビケラ目 ナガレトビケラ科)
 分布：北海道、本州、四国、九州に分布する。
 生息環境：山地溪流から平地溪流の平瀬に生息する。
 体長：18 mm
 写真：出典4

特徴：幼虫は美しいエメラルドグリーン色。頭部と前胸に斑紋はなく、黒に近い濃褐色。幼虫は石と石の間を歩き回って、弱ったり死んだりした幼虫を食べる。5月から10月ごろまでの長い期間、羽化がみられる。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料		●	●	●			



種名：ヤマナカマガレトビケラ
 (トビケラ目 ナガレトビケラ科)
 分布：北海道、本州に分布する。
 生息環境：山地溪流から平地溪流、平地流の平瀬に生息する。
 体長：12 mm くらい
 写真：出典4

特徴：頭部に斑紋があり、中胸、後胸側面に指状の鰓がある。石と石の間を這い回り、弱ったり死んだりした幼虫を食べる。溪流沿いに人家が多いような里山水質にも生息する。3月下旬から6月上旬と、8月下旬から10月上旬にかけて羽化する。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●					

幼虫 (Larva)



腹部の先が太い

肢やエラはない

種名 : アシマダラプユ属

(ハエ目 プユ科)

分布 : 北海道、本州、四国、九州に分布する。

生息環境: 早瀬や平瀬流心部の大石、岩盤の表面に垂直に立つようにしてくっついている。

体長 : 7 mm くらい

写真 : 出典 5

特徴 : 肢や鰓はなく、腹部の先が太い。幼虫は、口元の扇状のブラシで流下してくる有機物を捉えて食べている。また、口から絹糸を出しながら流れに乗って流下する行動もよくみられる。成虫は人間や動物から吸血する。年中羽化するが、早春に大量羽化することもある。

信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料	●	●	●	●			



種名 : ヒラタドロムシ属

(コウチュウ目 ヒラタドロムシ科)

分布 : 本州、四国、九州に分布する。

生息環境: 河川早瀬や平瀬の石表面に張り付くようにして生息。

体長 : 10 mm

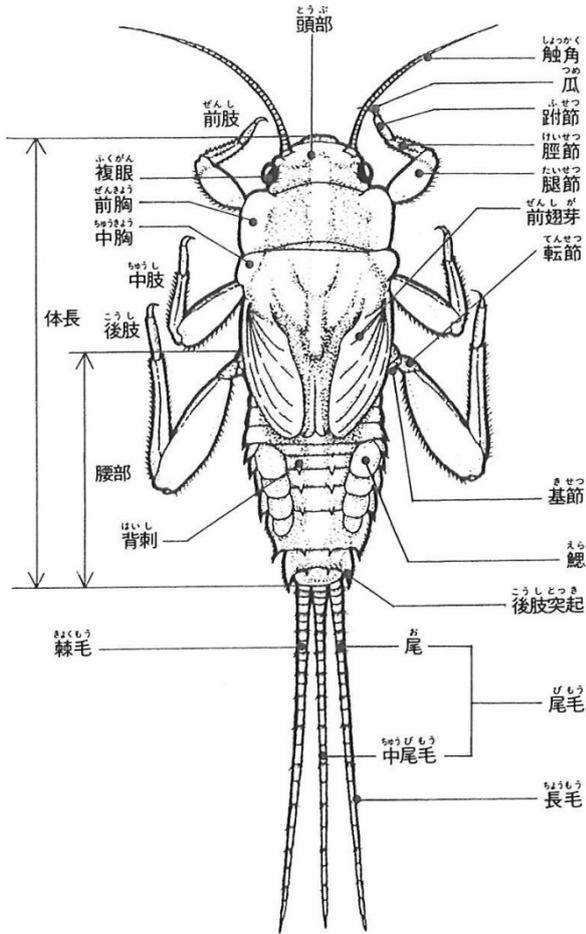
写真 : 出典 8

特徴 : 体色は黄褐色系、丸い皿を伏せたような平たい幼虫。外見は甲殻類のように見えるが腹面をみると3対の脚と腹部に鰓がある。石表面を非常にゆっくりと移動しながら付着藻類を食べる。成虫は体長6 mm くらいで、いわゆるコガネムシ体系の黒い甲虫になる。

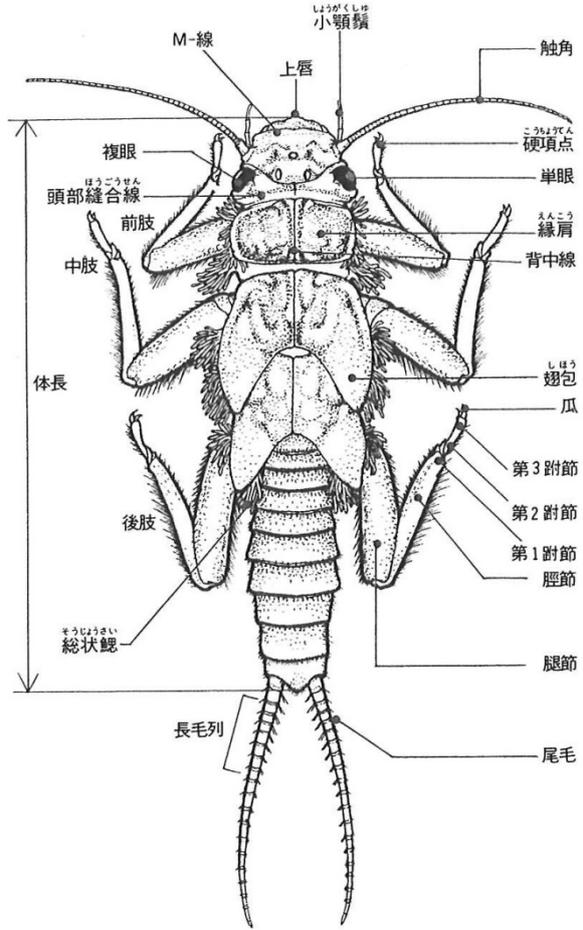
信濃川および支川の分布

	信濃川	貝野川	飛渡川	川治川	当間川	羽根川	田川
現地調査および資料			●	●			

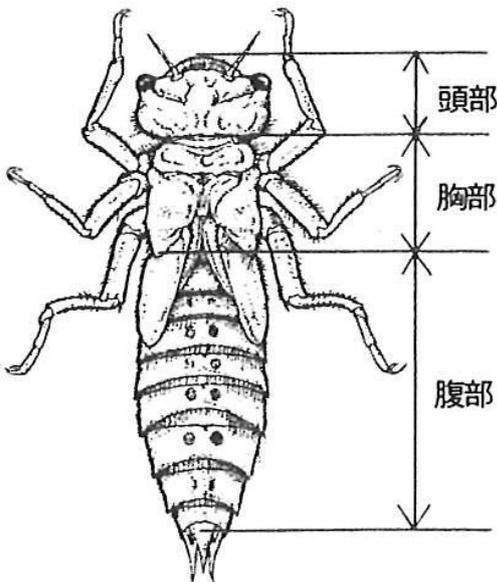
参考図（動物の体の構造）



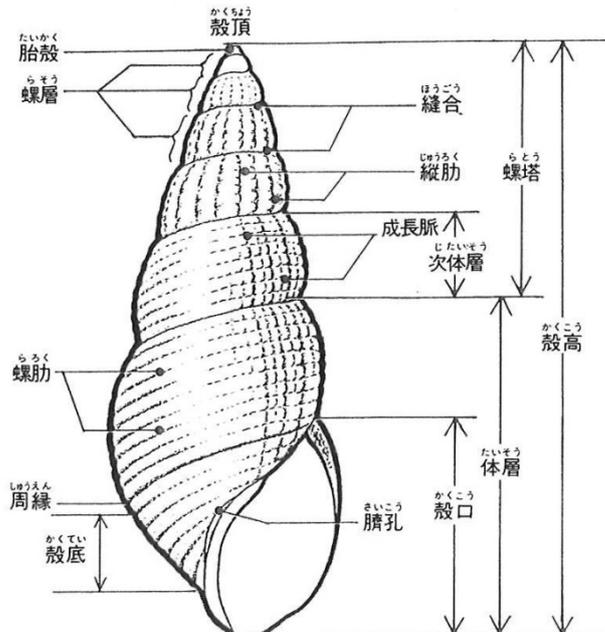
カゲロウの仲間



カワゲラの仲間

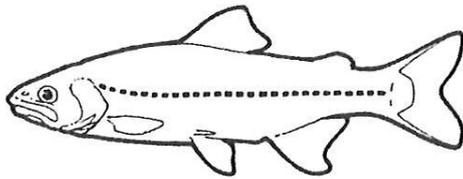
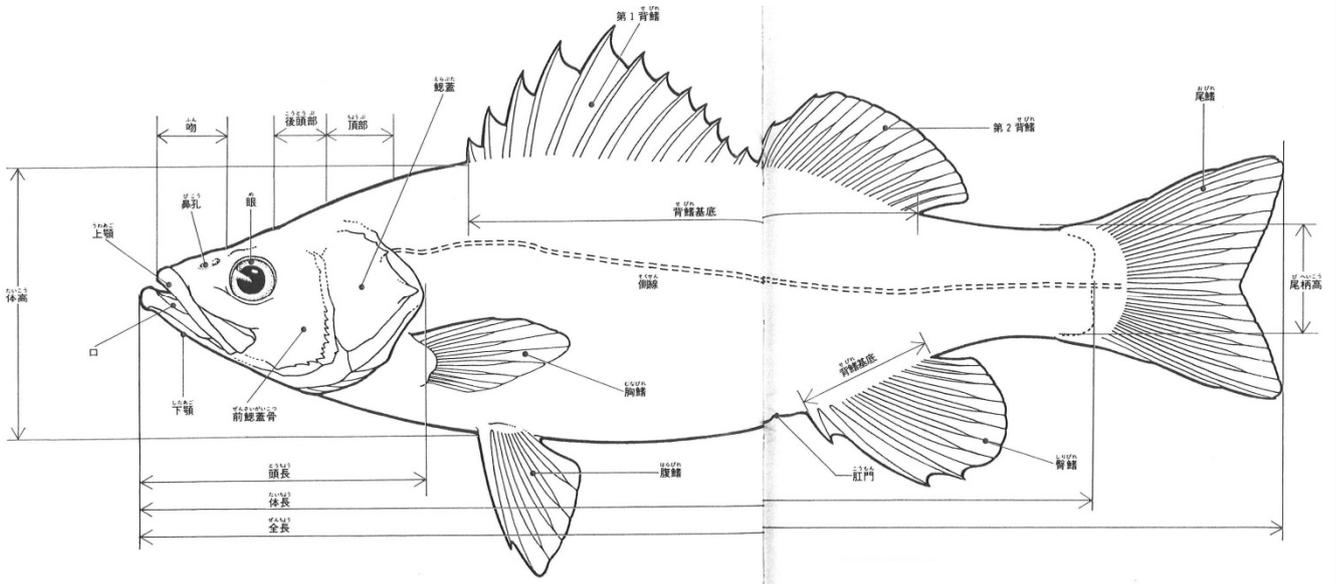


トンボの仲間

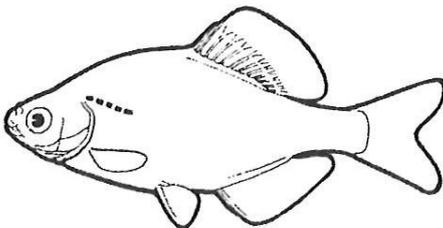


巻貝の仲間

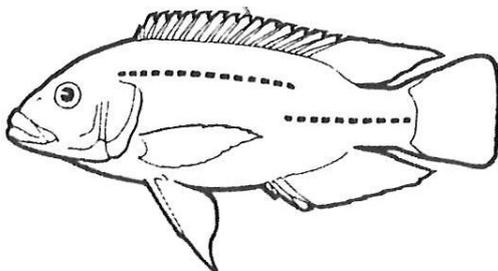
参考図（魚の体の構造）



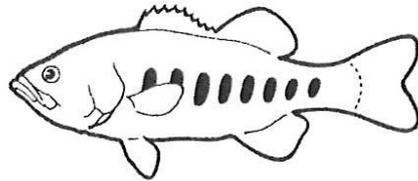
側線は完全



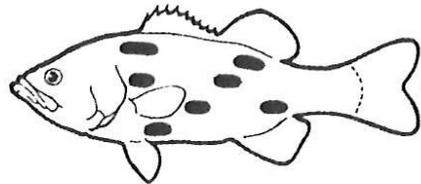
側線は不完全



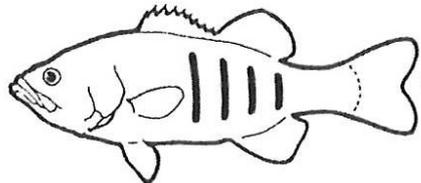
側線は二列に並ぶ



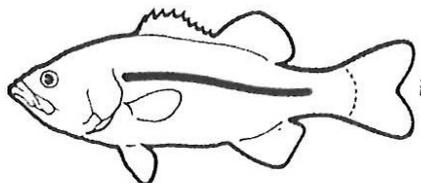
横斑



縦斑



横帯



縦帯

解説シート作成に使用した図書、文献等

1. 谷田一三・丸山博紀・高井幹夫（2000）「原色 川虫図鑑」
2. 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・青木典司（1999）「原色 日本トンボ幼虫・成虫 大図鑑」
3. 上野益三（1986）「川村 日本淡水生物学」
4. 河合禎次・谷田一三（2005）「日本産 水生昆虫」
5. 内田亨（1984）「新編日本動物図鑑」
6. 増田修・内山りゅう（2004）「日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類」
7. 奥田重俊（1996）「川の生物図典」
8. 刈田敏（2010）「水生生物ハンドブック」
9. 川那部浩弥・水野信彦・細谷和海（1989）「改訂版日本の淡水魚 山溪カラー名鑑」
10. 本間義治 監修（1983）「新潟県陸水動物図鑑」

解説シート作成に使用した写真の出典

1. 増田修・内山りゅう（2004）「日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類」
2. 豊田幸嗣・関慎太郎（2014）「日本の淡水性エビ・カニ」
3. 刈田敏（2002）「水生昆虫ファイルⅠ」
4. 刈田敏（2003）「水生昆虫ファイルⅡ」
5. 刈田敏（2005）「水生昆虫ファイルⅢ」
6. 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・青木典司（1999）「原色 日本トンボ幼虫・成虫 大図鑑」
7. 谷田一三・丸山博紀・高井幹夫（2000）「原色 川虫図鑑」
8. 刈田敏（2010）「水生生物ハンドブック」